

令和4年度大阪府母子保健運営協議会
「HTLV-1母子感染予防対策事業」
令和4年8月25日

HTLV-1母子感染予防対策・最近の話題

大阪鉄道病院
(HTLV-1学会登録医療機関)
血液内科
高 起良

内容

- 1) HTLV-1母子感染予防対策・最近の話題
 1. HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児コホート研究（板橋班）の最終報告
 2. HTLV-1母子感染予防対策マニュアル（第2版）の作成
- 2) 今後の大阪府のHTLV-1母子のサポート体制について（案）

1. HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児コホート研究 厚生労働行政推進調査事業費（板橋班）

1) 満3ヶ月までの短期母乳、凍結母乳が母子感染を予防することを再検証
(3歳時点で抗体検査を実施)



中間報告：短期母乳の約10%が長期母乳になってしまった



「短期母乳は失敗リスクあり」



完全人工栄養の勧奨（研究途中に母乳指導法が変更された）
「人工栄養は現時点では最も信頼できる予防手段」



最終結論は？

[Pediatr Int. 2021 Mar;63\(3\):284-289. doi: 10.1111/ped.14356. Epub 2021 Feb 27.](#)

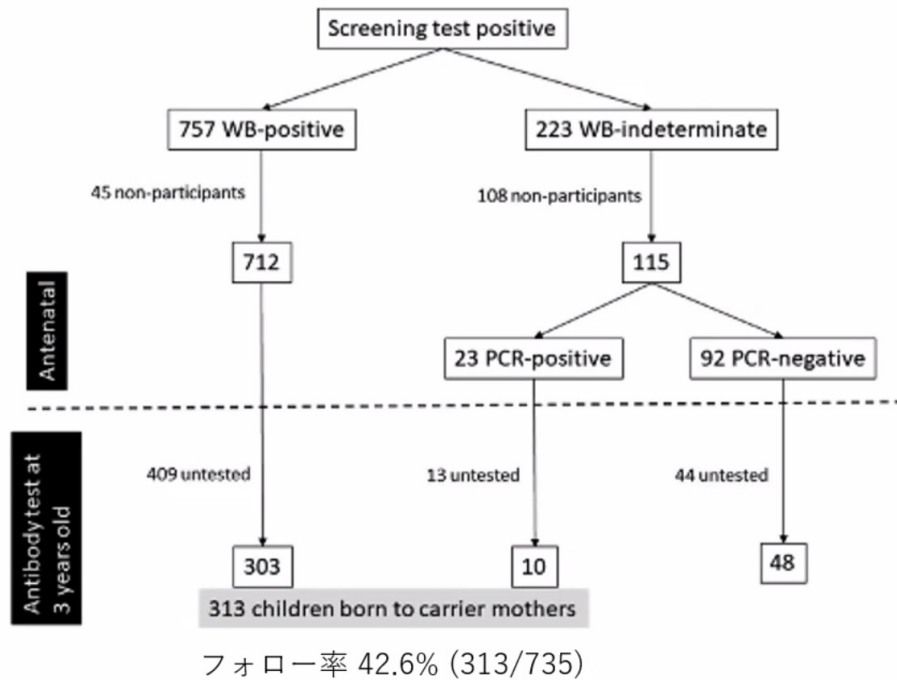
**Issues of infant feeding for postnatal prevention of
human T-cell leukemia/lymphoma virus type-1
mother-to-child transmission**

[Kazuo Itabashi](#)¹, [Tokuo Miyazawa](#)², [Yasuhito Nerome](#)³, [Akihiko Sekizawa](#)⁴,
[Hiroyuki Moriuchi](#)⁵, [Shigeru Saito](#)⁶, [Naohiro Yonemoto](#)⁷

HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児コホート研究（板橋班）最終報告

1) 症例登録

(2012-2015年 = マニュアル改訂前)



2) 乳汁選択法別母子感染率

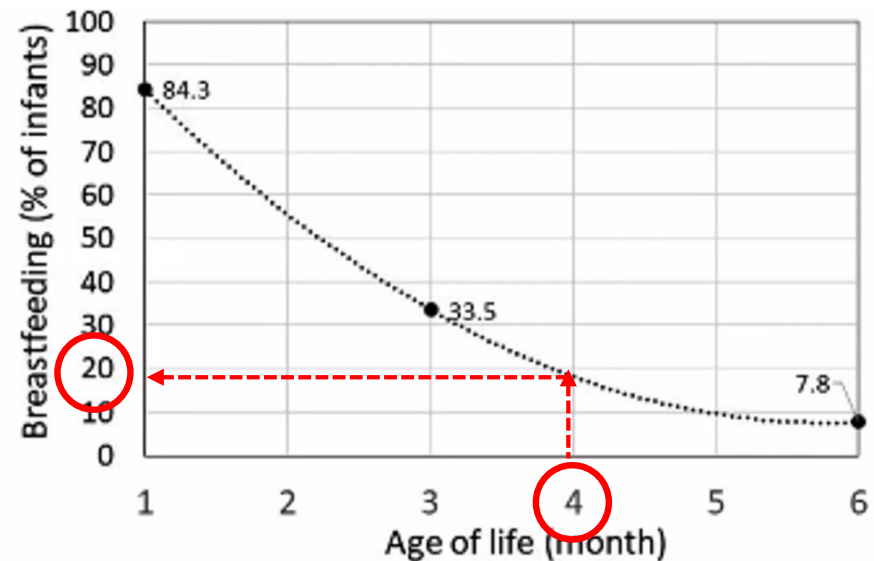
	母子感染率	95% C. I.
長期母乳栄養	16.7% (2/12)	-4.4% - 37.8%
短期母乳栄養 (3か月以内)	2.3% (4/172)	0.0% - 4.6%
凍結解凍母乳	5.3% (1/19)	-4.8% - 15.3%
完全人工栄養	6.4% (7/110)	1.9% - 10.9%
全体	4.5% (14/313)	2.6% - 7.4%

短期母乳栄養の母子感染リスク比 (対完全人工栄養) = 0.365 (0.116-1.145) ⇒ 母子感染リスクに差がない

短期母乳172名中104名は鹿児島県の母児 (鹿児島は77%の母親が短期母乳を選択)

3) 短期母乳栄養を選択した母児における母乳栄養率の推移

生後4か月時点でも約20%が人工栄養に移行できていない可能性がある



HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児コホート研究（板橋班）最終報告

1. 3ヵ月以内の短期母乳栄養は完全人工栄養と母子感染率に明らかな差はない
2. 短期母乳を選択した母児の7.8%は6ヵ月以上の長期母乳になっている
3. 生後4ヵ月時点でも約20%が人工栄養に移行できていない可能性がある
4. 6ヵ月以内の短期母乳は完全人工栄養と比べて母子感染率が2.9倍高い
5. 凍結解凍母乳は検討された症例数が少なくエビデンスとしては不十分

Itabashi K, Pediatr Int. 2021 Mar;63(3):284-289.



授乳方法の選択に関してマニュアル改訂へ

2. HTLV-1母子感染予防対策マニュアル（第2版）

厚生労働科学研究班による

HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル

（第2版）

厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）

HTLV-1 母子感染対策および支援体制の課題の検討と対策に関する研究

研究代表者 内丸薫（東京大学大学院新領域創成科学研究科）

2022年5月



現在、関連学会（産婦人科、小児科、その他）にパブリックコメントを募集中。

目次

第1章 わが国における母子感染対策の歩み

- I. HTLV-1 総合対策導入までの経緯および導入後の現状
- II. HTLV-1 母子感染対策協議会の役割

第2章 HTLV-1の基礎知識

- I. WHO 感染症対策における HTLV-1 感染の位置づけ
- II. ウイルスの特徴
- III. 感染経路
- IV. 疫学
- V. HTLV-1 妊婦スクリーニングの現状
- VI. HTLV-1 関連疾患と感染者の健康予後

第3章 妊婦に対する HTLV-1 スクリーニング検査

- I. スクリーニング検査と確認検査
- II. 検査における留意点
- III. 検査結果の告知と個人情報の保護
- IV. 内科における確認検査陽性者への対応
- V. 自身がキャリアと診断された妊婦に対する心理的サポート

第4章 出生後の母子感染予防のための栄養方法の選択

- I. 出生した児への栄養方法による母子感染率（厚生労働科学研究班による調査の概要）
- II. 栄養方法の選択
- III. 各栄養方法の特徴
- IV. 各栄養方法別の支援体制
- V. 心理的サポートやカウンセリングについて

第5章 出生後のフォローアップ

- I. キャリア妊婦から出生した児のフォローアップの意義
- II. 出生後～小児期・小児期以降のフォローアップ
- III. 児の抗体検査についての意思決定支援

巻末資料

- 資料1. 小児科医あての診療情報提供書
- 資料2. HTLV-1 関連疾患患者、HTLV-1 キャリア及び家族を対象とした心理学的なカウンセリング
- 資料3. 傾聴・共感・葛藤への支援
- 資料4. 共有意思決定支援
- 資料5. Q&A
- 資料6. 搾乳方法
- 資料7. 鹿児島県における短期母乳栄養選択者への支援の具体例
- 資料8. 乳汁産生抑制のためのケア
- 資料9. 凍結解凍母乳栄養

2. HTLV-1母子感染予防対策マニュアル（第2版）

授乳方法の選択 改定案

1. 医療者は母親に対して母子感染予防のための栄養方法（完全人工栄養、短期母乳栄養）のメリット、デメリットを妊娠・出産・育児の視点から中立的に説明し、**母親自身が望む栄養法を選択できるように支援する**とともに、**母親の選択を最大限に尊重する**姿勢が求められる。
 - ・ 経母乳感染を予防するには**完全人工栄養が最も確実な方法**であるが、完全人工栄養でも3-6%母子感染が起こりうる。
 - ・ 厚生労働科学研究班による国内のデータ解析では、3か月以内の短期母乳栄養は完全人工栄養と比べて母子感染率に差がないことが示されている。
2. 母乳栄養を希望する母親に対しては、**下記の条件を満たしたうえで**、90日以内の短期母乳栄養を考慮する。
 - ・ 母乳を与える長期化すると児への感染リスクが上昇することを十分に説明し、理解を得る。
 - ・ 助産師外来等において、**適切な乳房管理**および生後90日以内に確実に完全人工栄養へ移行するための支援体制が整備されている。
 - ・ 里帰り分娩などで自施設でのフォローが困難な場合には、母児のフォローが可能な適切な医療機関への紹介する。
3. 完全人工栄養、短期母乳栄養いずれを選択した母児に対しても、医療機関、各自治体(HTLV-1母子感染予防対策協議会など)、関連する学会および職能団体が連携し、適切な支援を提供できる体制の構築が必須である。

(凍結解凍母乳は理論的には有効である可能性があるが、十分なエビデンスが存在しないため推奨には含めない)

「母乳を与えてあげられるのであれば与えたい」というキャリアマザーの要望にも応える



1. 90日以内の短期母乳栄養が復活
2. 適切な支援体制の整備が求められる

内容

- 1) HTLV-1母子感染予防対策・最近の話題
 1. HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児コホート研究（板橋班）の最終報告
 2. HTLV-1母子感染予防対策マニュアル（第2版）の作成
- 2) 今後の大阪府のHTLV-1母子のサポート体制について（案）

HTLV-1キャリアマザーへの適切な支援体制の整備に求められるもの

1) キャリアマザーに関する**基本情報の把握**（全例把握）

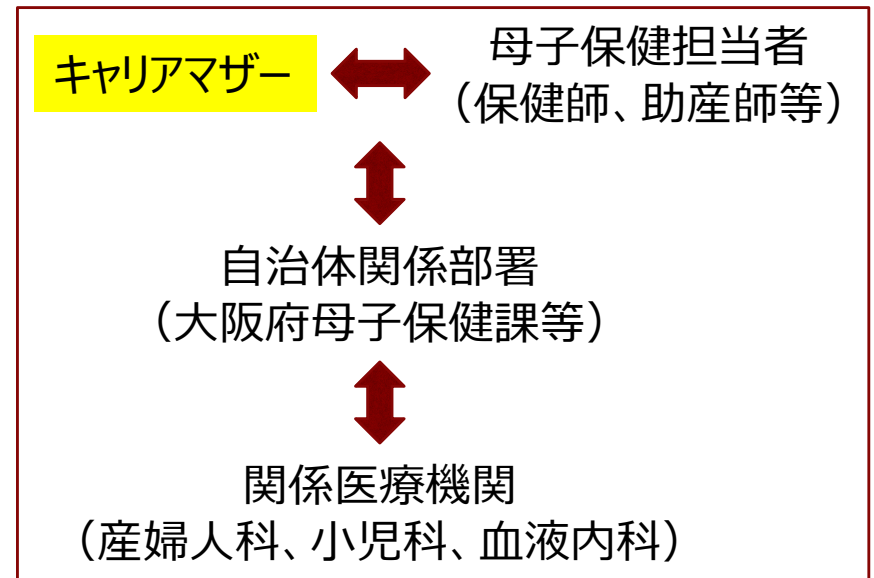
1. 抗体検査結果の把握
スクリーニング検査だけでは不十分（偽陽性が少なくないため）
--→ 必ず確認検査（LIA法）、またはPCR検査の結果も
2. 選択した授乳法の把握（人工栄養、短期母乳など）

2) キャリアマザーへの**サポート**

- HTLV-1に対する疑問や不安への対応
- 授乳法のサポート（特に短期母乳の場合）
- 3歳以降での児の抗体検査の情報提供

3) キャリアマザーに関する**情報の共有**

- キャリアマザーに直接対応する保健師や助産師に対してもサポートが必要
- 保健師や助産師が把握した上記情報は、各自治体の関係部署へ集約される
- 関係部署から関係医療機関にも情報が共有される
- 必要な情報がキャリア妊婦へフィードバックされる



➡ 今後の大阪府のHTLV-1母子サポート体制に結びつけるには？

2. 今後の大阪府のHTLV-1母子のサポート体制について（案）

「子育て世代包括支援センター」の活用

キャリア妊婦の周産期サポートを「子育て世代包括支援センター」の中に組み入れる

- 府内全てのキャリア妊婦の情報共有が可能
 - キャリア妊婦への相談対応 + 出生児フォローが可能
 - 相談窓口（医療機関）を決めておく必要がある
- > 大阪府母子保健運営協議会における産婦人科医会、小児科医会、血液内科での連携で対応可能では……

HTLV-1キャリアの母子のサポート体制イメージ図

